



平成30年7月豪雨 適正な分派で浸水被害を防止

旭川放水路（百間川）の整備効果

今回の洪水では、旭川放水路（百間川）がなかった場合に、岡山市街地（JR岡山駅付近）の約180ha及び約3,300戸の家屋の浸水被害が発生するおそれありましたが、放水路に洪水を分流することにより旭川の水位を約1.3m低下させ、洪水を安全に流下させました。

今回、最大で分流前毎秒4,200トンのうち、毎秒1,200トンを百間川へ分流

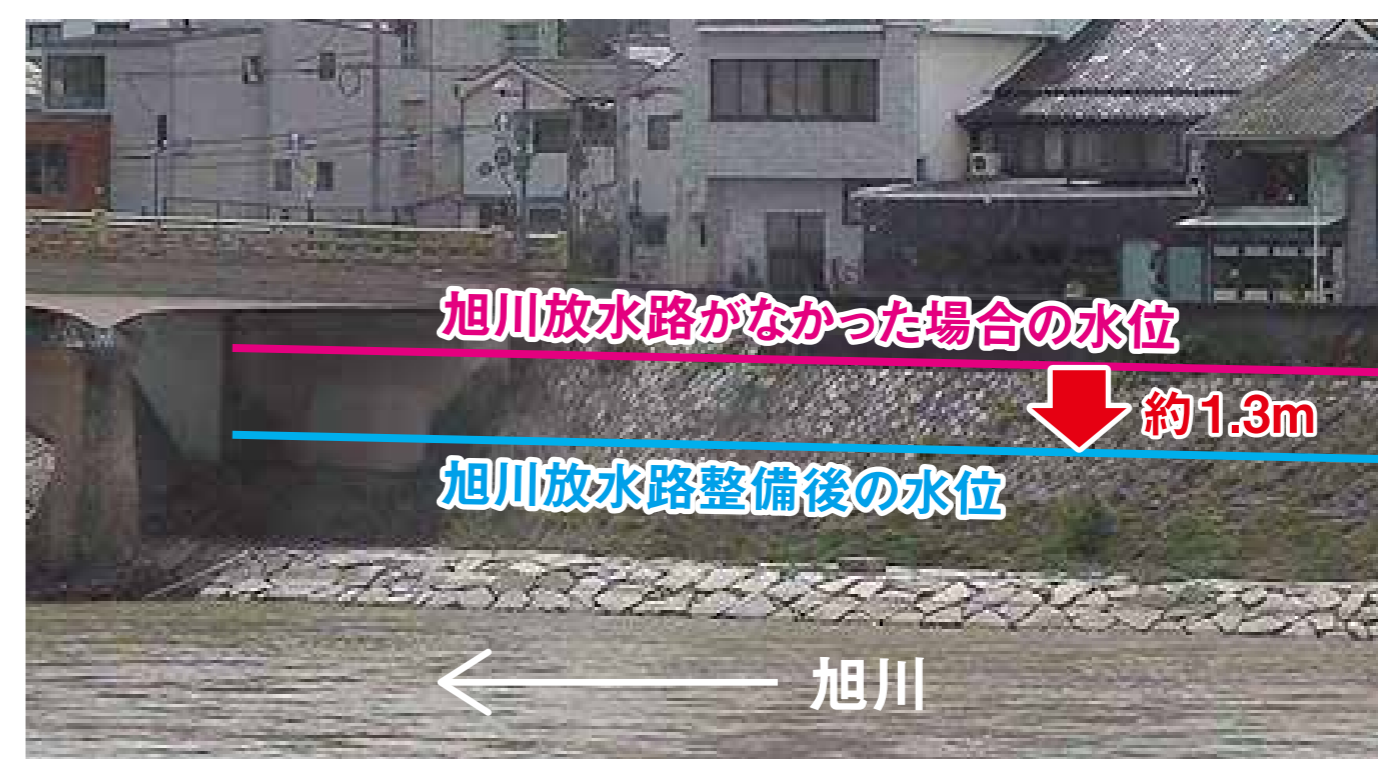


旭川放水路（百間川）分流状況（7月6日(金)）

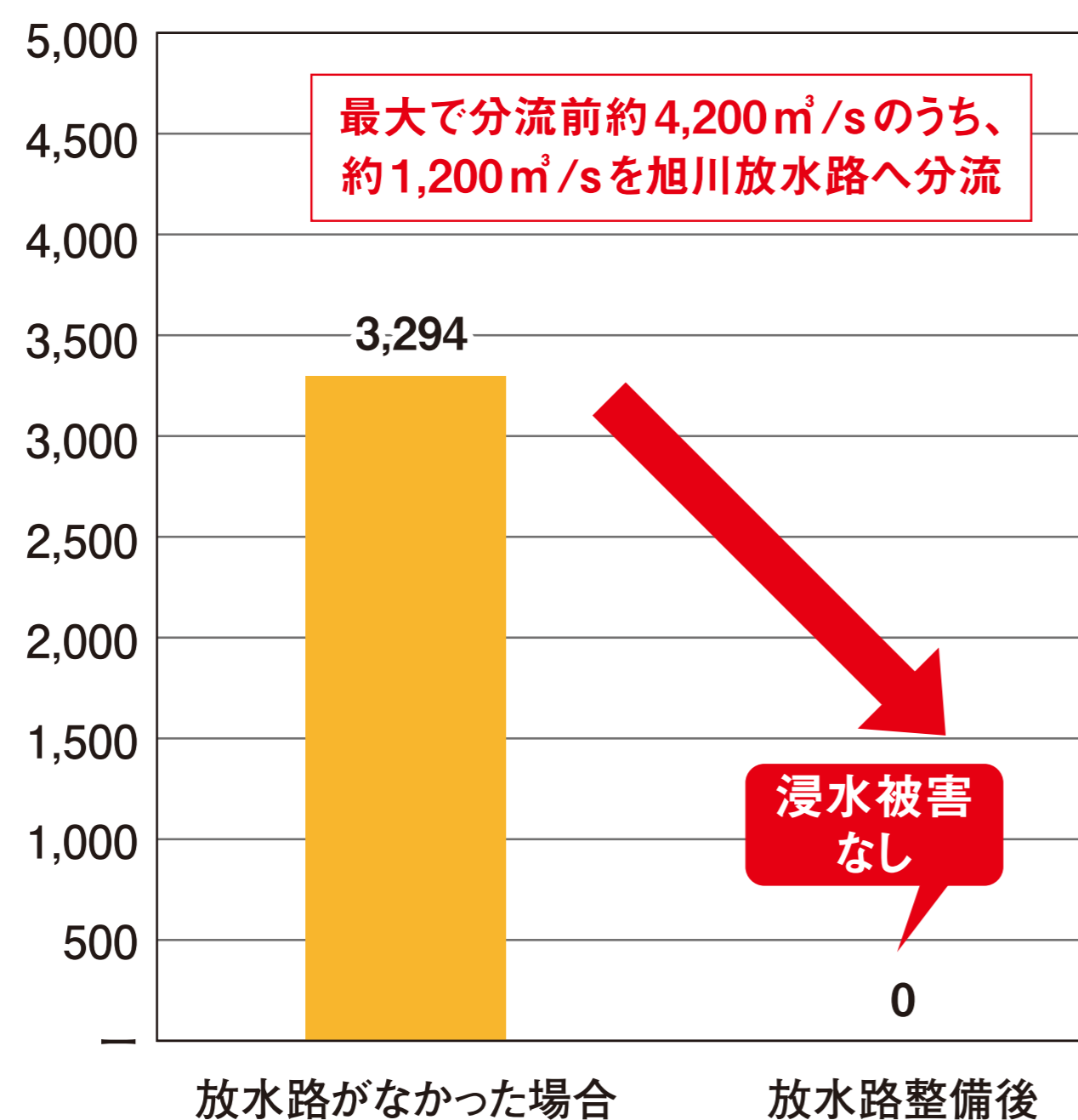


増水した旭川（右）の水が、一の荒手を越え、百間川（左）に流れ込む様子。

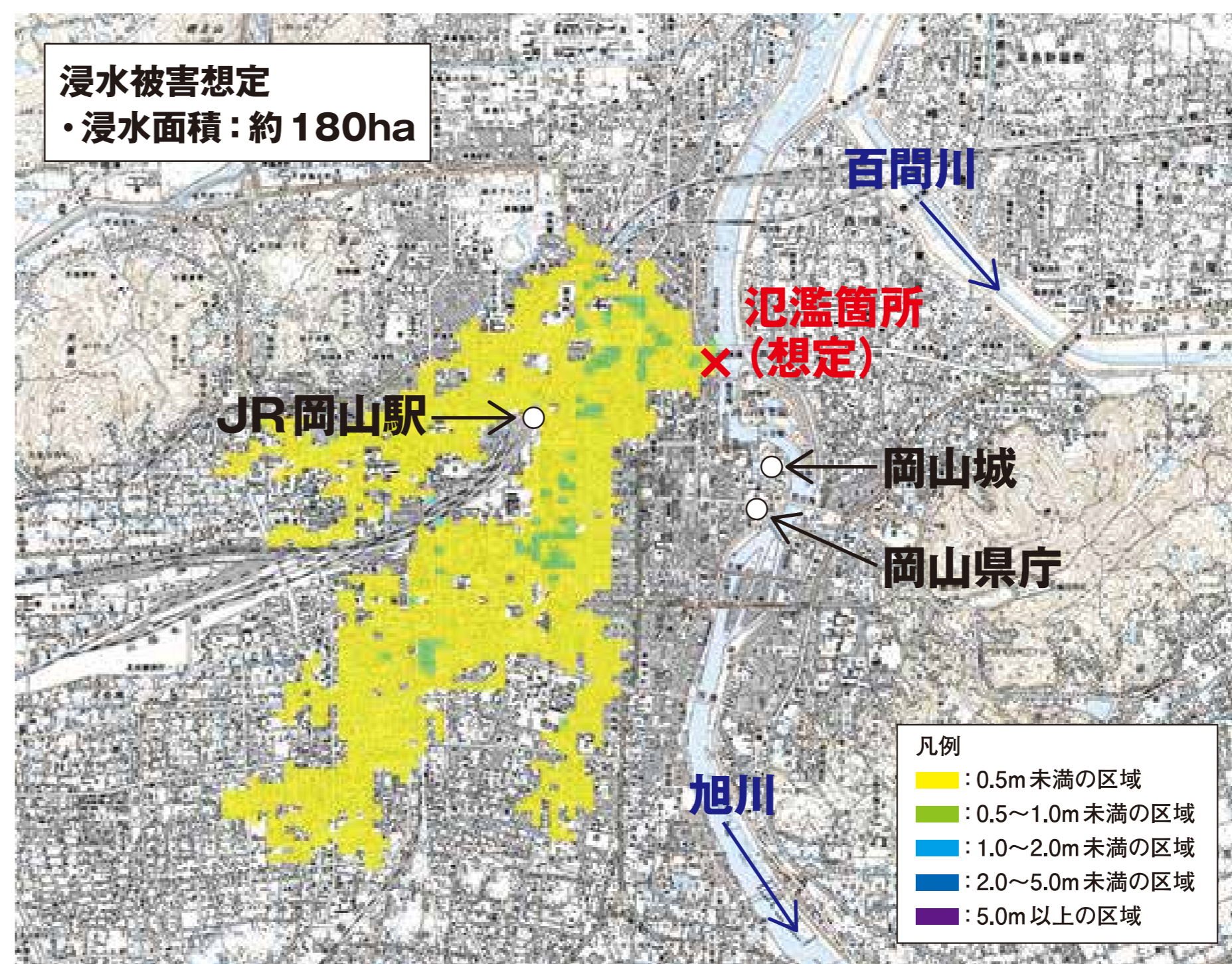
水位低減イメージ（旭川 出石地区）



今回の洪水による整備前後の
浸水被害の比較（浸水戸数）



旭川放水路がなかった場合の浸水想定区域



※数値等は速報値であり、今後の精査で変更する場合があります。